

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階 )

事業所番号	0290122163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて		
所在地	青森県青森市富田五丁目7番21号		
自己評価作成日	平成23年12月8日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月いろいろな行事を計画しており、入居者が出かけたい所等を会話の中から見つけ出して外出行事を企画している他、地域住民や家族と一緒に参加できる行事にて、交流を深めている。また、近隣にはデイサービスセンターや保育園があり、遊びに行ったり、行事に参加している。  
季節感あふれる装飾品を皆で作って施設内に飾り、ゆったりとした生活空間を作ること心がけている。また、一人ひとりとの会話やふれあいを大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が地域で約40年前から保育園を営んでいたため、地域住民の法人に対する信頼が高く、ホームと地域とのつながりも強い。  
職員一人ひとりが利用者一人ひとりのことを考えており、コミュニケーションを大切にしながら、日々のケアを実践している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成24年1月30日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所全体の理念としての「地域の中で地域とともに」の他に、ホームとして「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間としての尊厳ある生活」を理念に掲げ、ユニット会議時に復唱し、共有化に努めている。</p>	<p>法人の理念「地域の中で地域とともに」を基本に、「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間としての尊厳ある生活」をホーム独自の理念として作成し、掲げている。また、理念を玄関に掲示したり、ユニット会議で復唱する等、職員間で共有し、日々のケアに実践できるように努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>納涼祭やホーム内で行われる行事に地域の方々を招待したり、町内のゴミ拾いをする等、地域の方々との交流を図っている。</p>	<p>クリスマス・節分・納涼祭等のホーム行事に地域住民を招待している他、町内会に加入しており、神社の桜祭りに招待される等、地域とのつながりが強い。また、町内会の畑を利用して野菜を栽培したり、近所のスーパーに買い物に出かけた際には気軽に声をかけてもらう等、地域の一員として認められ、日常的に交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じ、会議参加者から認知症の人への理解を得ている。また、実習生を受け入れることを通じて、認知症の人を理解する人材を育成している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者の状況や活動内容等を報告し、更に町内と関係のある話題を提供することで、意見を出しやすいように努めている。また、出た意見を会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。</p>	<p>町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者家族が運営推進会議のメンバーとなっており、出席率も非常に高い。会議ではホームの行事や利用者の状況を報告している他、利用者の無断外出時の対応等を話し合い、積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の資料を市役所に持参して報告し、情報交換等を行っている。</p>	<p>地域包括支援センターが同じ法人に委託されており、連携を密に行っている。また、市には運営推進会議の会議録やホームのパンフレットを配布し、ケースワーカーとも利用者個別の問題解決に向けた連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>「これは身体拘束になるのだろうか?」と職員一人ひとりが疑問に思った時点で、管理者を含め、話し合いを行っている。また、日々のケアの中で声かけの仕方にも注意している。</p>	<p>身体拘束に関する外部研修に積極的に参加しており、その後に復命書を全職員に回覧し、理解を深めている。日中は玄関を施錠しておらず、日々のコミュニケーションから外出傾向を察知するように努め、察知した場合には、畑や買い物、同法人のデイサービスや保育園に出かける等して支援に努めている。無断外出に備えて、町内会や交番とも連携を図り、身体拘束をしないケアを実践している他、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、同意書と記録を残す体制を整えている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修で学んだことを全職員で共有し、虐待の防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>研修で学んだことを全職員で共有しているが、制度を活用するまでには至っていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明後も契約に関して不安な点がないかを確認し、その都度理解してもらえるように努めている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に目安箱等を設置し、利用者や家族からの要望を常に確認できるような環境づくりに努めている。また、運営推進会議や『おきだて新聞』等で意見や要望等を関係者へ報告している。</p>	<p>玄関に目安箱を設置し、意見を出しやすいように工夫しており、日々のコミュニケーションや表情等からも察するように努めている。また、家族には、面会時や月1回の近況報告等を活用し、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやユニット会議、職員会議等にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット会議等を通じ、職員から日々のケアの中で気づいた点等を聞き取り、手すりの改善をする等、意見を反映させている。また、職員の異動等を行う場合には、利用者に与える影響を考え、管理者が法人代表者に意見を述べている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、学歴や資格、実績にあった給与水準、労働基準法に則った労働時間、健康診断、勉強会の実施等、環境条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの学びたい研修内容を把握し、参加する機会を確保している。また、復命書を回覧することで、他の職員にも研修内容を学ばせ、実践につなげるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームの部会や懇親会、研修等で他施設と交流する機会を持ち、情報交換等を行うことによって、サービスの質を向上させている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話を大切にし、声がけや会話の回数を多くすることで、安心感が得られるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と個別に話し合う場を設けており、その後も職員といつでも会話や相談ができるよう、雰囲気づくりを心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の意見、要望を聞いた上で介護計画を作成し、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の尊厳を大切にしながら、共に生活できるよう心がけている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡を取り合い、本人の状態や生活状況を伝えている。また、面会に訪れやすい環境づくりにも努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と会う機会を多く提供できるように努めており、関係が途切れないように支援している。	利用前に、必ず自宅を訪問して調査することで、馴染みの人や場所等を把握しており、知人からの電話を取り次いだり、手紙のやり取りを支援している。また、馴染みの理容店利用を支援したり、利用者が以前勤務していた職場を見学に行く等、これまでの関係の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように職員が間に入り、対応している。また、入居者同士でも、一緒にレクリエーションや作業ができるような環境づくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居等、他の施設等に移る際には、必要に応じてケアの情報等を提供している。また、家族の相談を受ける等の支援にも努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを十分にとることで、本人の希望や意向を把握し、ケアにつなげている。	日々の会話やコミュニケーションを大切にすることで、利用者の表情や仕草からも意向を汲み取るようにしている。また、家族や友人、親戚等は勿論、以前利用していた事業者からも情報収集を行い、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションや家族からの情報を基に、生活歴や生活環境を把握し、支援に取り入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向や日々の状態を観察し、その情報を職員間で共有することで、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、現状を把握した上で、その都度必要に応じて介護計画を変更している。	本人や家族等の意見や気づきを反映し、ユニット会議において、職員全員で介護計画を作成している。基本は3ヶ月に1回の見直しだが、利用者を常に観察し、希望や身体状況に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人の状態や行動、言動等を詳しく記入し、職員同士で情報を共有しながら、サービスを提供している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>デイサービスや保育園等の行事に参加し、交流をしている。また、家族や地域住民の力を借りて、様々な行事を行っている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の多くが、内科医による往診を受けている。他科の受診は、本人や家族の希望、かかりつけ医の意見や指示を基に行っている。</p>	<p>利用前の受療状況を把握し、利用者が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、精神科や歯科等の専門医の受診も支援しており、検査時には家族に同行してもらい、医療機関との話し合いを行っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調不良時の訴えやその兆候がみられた場合、すぐに看護師に報告・相談し、処置や受診につなげられるよう対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医と密に連絡を取り合うことで、体調不良時の受診や入院が迅速に行えるよう努めている。また、入院時には、お互いに情報を交換し合えるような関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。また、家族や医師とも話し合い、事業所でできることを十分に説明し、支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期の対応指針を整備しており、ホームの方針を明確にしている。また、家族や医療機関と連携を図りながら、重度化や終末期に備え、意思統一を図っている。</p>	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法やAED使用の訓練を行っている。また、様々な事故や急変時の対応マニュアルを作成し、職員が迅速に対応できるよう努めている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や連絡網の確認を行い、災害に備えている。また、訓練時には地域の方の協力も得て行っている。		緊急連絡網を用い、全職員・全利用者の他に地域住民も加わり、年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、消防署や警察署から防災のアドバイスをもらったり、業者による設備点検も定期的に行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルに基づき、その人に応じた言葉かけや対応の仕方を考え、安心して生活を送れるように支援している。		プライバシー保護マニュアル、個人情報保護マニュアルを整備しており、失禁時には周りに気づかれないように声がけしたり、異性介助が気になる利用者には同性介助で対応する等、利用者の羞恥心に配慮したケアを実践している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話を通して、入居者の希望を聞き、出来る限り、自己決定できるように働きかけている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望を聞き、出来る限り、入居者の希望に沿った支援を行えるよう、日々努めている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や外出時の衣類等は、それぞれ自由に選べるように職員が見守り、対応できるように環境が整っている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から好みのものを聞き、それをメニューに反映させている。食材の簡単な下処理や食卓準備、後片付け等は職員と一緒にやっている。	職員の中に食事係を設け、普段の生活の中から利用者の希望を把握するように努めている。また、利用者は食事の後片付けや配膳、下ごしらえ等、できることを一緒に行っており、職員は食べこぼし等のサポートを行い、食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いで栄養が偏る場合は、食べやすいように形や味を工夫し、提供するよう心がけている。また、水分補給の際も声がけし、希望時には常に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアにより、口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声がけをしたり、誘導することで、トイレでの自力排泄ができるように支援している。	排泄チェック表による記録で排泄パターンを把握し、それに応じた事前誘導を行うことで、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、月1回のユニット会議で、おむつの使用を継続するか否かの見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘となった場合には、飲食物を工夫することで対応している。また、主治医への相談・指示により、服薬での対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り、希望に沿った入浴時間や入浴方法を取り入れている。また、時間に関しては、その日の入居者の健康状態も考慮し、調整をしている。	基本は火曜日と金曜日の入浴となっているが、希望により、いつでも入浴することができる。職員は利用者の習慣や好みを把握しており、入浴順や入浴回数を工夫している他、羞恥心に配慮して同性介助を行ったり、入浴を拒否する利用者には別の職員での対応や日を改める等、健康状態にも配慮の上、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の席で傾眠している方には声がけし、ソファのリクライニングや居室での臥床を促し、対応している。夜間は湿度や室温に気を配り、対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し、処方薬に変更があった場合には副作用に気を配るよう、話し合っている。また、気になることがあれば、常に看護師や主治医に相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段からコミュニケーションをとり、趣味や生活歴を聞き、個々に過ごしやすい環境となるよう心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は要望に応じ、ドライブや散歩、屋外でのボール遊び、日光浴等を行っている。また、買い物への同行や花の水やり、洗濯物干し等の屋外へ出る機会を、出来る限り作るように心がけている。	定期的な買い物や受診時のドライブ、近所への散歩や畑仕事等、外出できる機会を多く設けている。普段の会話の中から行きたい場所を把握し、利用者の状態に応じて、リフト車や場所の変更を行いながら、外出を支援している。また、外出先で家族と待ち合わせをしたり、時々自宅に連れて行く等、家族と協力しながら支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームで行っているが、要望や希望に応じて出金し、買い物に同行している他、職員が買い物を代行する場合もある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する場合は、いつでも対応できるようになっている。現在、手紙の利用希望者はいないが、いつでも対応できる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節感のある装飾品を全員で作製し、飾っている。また、出来る限り個人の要望に沿えるよう、使いやすい居室作りを工夫し、対応している。	家庭的な調度品が多く、手すり等も木製で、家庭的な雰囲気を保てるように工夫している。職員の声やテレビの音は騒がしくなく、明るさも適当で、加湿器や洗濯物で湿度調整を行っている。また、職員と利用者で作った作品が壁一面に飾られており、室内にいても季節を感じるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、独りになれる空間は居室のみとなっているが、会話の場として利用している方もいるため、それぞれが空間を自由に使い、過ごせるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿えるよう、家具の配置をそれぞれ変えて対応している。また、自宅から見慣れた家具等を持参して使用することで、居心地よく過ごせるように工夫している。	ホームからの働きかけにより、家具や電化製品、位牌等が自宅から持ち込まれている。持ち込みの少ない利用者には、職員と一緒に好みの物を購入したり、飾り物を作成したりする等、一人ひとりにあった部屋作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは、なるべく一人で行ってもらおうようにし、見守りまたは、一部介助にて対応している。		